

2023年度 大学院一般入試第3回 出題の意図

理工学研究科 博士前期課程 生産開発工学専攻

科目	出題の意図
専門科目 機械工学系	機械工学－2：極座標表示によるナビエ・ストークス方程式の強制渦への適用を問う問題。
専門科目 力学	本問は、複数の物体が結合した系において、力のつり合いや運動方程式を正しく設定し、振動現象を解析する能力を評価することが目的である。受験者が、上側の物体が単振動を行うとき、その運動が下に吊るされた物体へどのように影響を与えるかを理解し、系全体の運動方程式を立式して解析できるかを問う。さらに、張力の変化や糸が弛まない振幅の条件などを論理的に評価できるかを確認する。
専門科目 数学	大学院での研究の際に必要な微分積分や線形代数という、数学における基礎的・基本的な内容の理解度を測ることを意図している。具体的な出題内容は、微分積分に関しては、一変数関数の定積分の値を求める問題、線形代数に関しては、逆行列および固有値、固有ベクトルを求める方法、ベクトルの分解について問う問題、である。
専門科目 電気電子工学基礎	大学で学ぶ電気電子系科目に関して、電磁気学に関する基本的な問題[2]が解けるかを問う。

2024年度 大学院一般入試第3回 出題の意図

経済経営学研究科 経済学専攻

科目	出題の意図
国際経済	国際貿易や国際投資に関する基礎的知識を確認するとともに、1990年代以降のグローバル化の進展や2007年以降の世界金融危機後の停滞といった最近の世界経済の動向に対する理解を問うものである。さらに、国際貿易や国際投資の拡大・停滞要因を複数挙げて整理し、論理的に説明できるかどうかを評価することを意図している。
観光経済	<p>(1) いずれの問題も、日本の大学において観光教育が進むようになったきっかけである21世紀に入ってから観光行政の拡充と2010年代以降のインバウンドブームについて、基礎的内容が理解できているかを問うている。設問(1)においては、2010年代以降のインバウンドブームについてその概要が理解できているかどうかを問うており、その中で訪日外国人観光客の概数まで解答できることが望まれる。また、このインバウンドブームが生まれた要因が、経済環境要因と政策的要因に分けられることを理解できていることが望ましい。</p> <p>(2) 観光・旅行は学問分野としてさまざまな分野で論じられるので、体系的な枠組みを定義しにくい。経済学の基礎理論、特にマクロ経済学において国際観光がどのように位置づけられるかを問うものである。特に、外国人旅行消費（外国人観光消費）が理論的には輸出の一部と位置付けられるものの、国際収支の実務においてはサービス収支の中の旅行収支に含まれているということを理解できていることが望ましい。</p> <p>(3) 日本のインバウンドブームが国際的な観光ブームだけで説明できるものではなく、21世紀に入って日本政府の大きな政策方針が背景にあったことを理解できているかどうか問うものである。日本経済の大きな流れとして貿易立国だけを日本経済の推進力とすることが困難になり、観光立国という言葉に代表されるように、サービス経済の重要性が意識される政策方針が進められたことを問うている。日本政府の観光行政に関する客観的事実を理解していることが望ましい。</p>

経済経営学研究科 経済学専攻

科目	出題の意図
会計	修士課程で会計学分野の研究を行うために求められる、会計学の基礎知識が理解できているかを問う問題である。

理工学研究科 博士前期課程 社会開発工学専攻

科目	出題の意図
専門科目 構造系	都市建設や環境保全（土木系）、建築設計や建築生産（建築系）、住環境をつくる環境技術や空間デザイン（住環境系）のいずれかに関する基礎的知識や、研究活動を行うための数理能力を確認する。特に、土木・建築の構造物とそれらを支える地盤についての力学的問題を究明し、安全でより合理的な各種構造物を開発・設計する研究活動に必要な基礎知識を確認する。

農学研究科 博士前期課程 農業生産科学領域

科目	出題の意図
専門科目 植物遺伝育種科学	遺伝育種学研究では、「育種材料」、「遺伝」および「ゲノム」についての知識と理解が不可欠である。そこで問1および問2では「育種材料」として重要な「遺伝資源」について、問3および問4では「育種法」と「遺伝」の関係について、問5では「分子育種」や「ゲノムデザイン育種」に必要な「ゲノム」について、の知識と理解度を測ることを目的とし、出題した。